



令和6年8月27日

岩倉市議会

議長 関戸郁文様

会派名 創政会

代表者名 須藤智子

創政会行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和6年7月2日(火)
- 2 視察先 大阪府高石市

3 出席人数及び氏名

4名	梅村均	伊藤隆信
	井上真砂美	片岡健一郎

4 復命事項

別紙のとおり

創政会行政視察報告書

作成者：梅村均

【日 時】 令和 6 年 7 月 2 日（火） 13:30～16:00

【視察先】 大阪府高石市

【参加者】 梅村均 井上真砂美 伊藤隆信 片岡健一郎 計 4 名

【テーマ】 1. 国保会計累積赤字解消の取組みと健康増進策
2. 駅周辺のウォークアブル化への背景と内容
その他. 市民体育祭における自治会リレーの現状

【説明者】

1. 保健福祉部 健康増進課 星野課長・松井課長代理
 2. 土木部 事業推進室 石栗室長
土木部 事業推進室 駅周辺整備課 泉原課長・岸課長代理
- その他. 教育委員会 教育課 船富参事

【主な内容】

《高石市の概況》

- ・人口：56,563 人 面積：11.30 km² 議員定数：15 人
- ・便利なアクセス機能なまち。なんば駅まで約 20 分、関西空港まで約 30 分
- ・令和 4 年度決算：歳入総額 272 億円（岩倉市 187 億円）

1. 国保会計累積赤字解消の取組みと健康増進策

《国保会計累積赤字の背景》

- ・保険給付費の推移：被保険者数の減少に伴い、減少傾向であるが、R4 年度は増額となった。一人あたり保険給付費は令和元年以降増加傾向となっており、R3 から R4 にかけては特に急増している（伸び率 7 %）
- ・累積赤字に至った経緯：平成 8 年以降、急激な医療費の伸びによる保険給付費の増加、保険料収納率の低迷による保険料収入不足など、国保財政の脆弱性により、慢性的な赤字体質となる。平成 21 年度決算時点で、約 11 億 8 千万円の累積赤字となる。

《国保健全化への取組み》

- ・健全化に向けた対策内容：保険料率の改定、コールセンターの開設、ジェネリック医薬品の利用促進、ペイジー口座振替受付サービスの導入、滞納処分の実施等徴収強化、医療費の適正化（レセプト点検の充実強化）、特定検診受診率向上、国・府の交付金の確保、一般会計法定外繰入の実施
- ・H24 から H29 の 6 年間に累積赤字約 12 億円を約 4 億円まで圧縮し、その後も計画を継続し、R2 に赤字を全額解消する計画とした。結果 R3 に解消した。

《健康増進策の具体例》

- ・ 毎日が元気健幸ウォーキング：市内5か所のコースでほぼ週5日開催。雨天時は、体育館を使うなどの工夫もあり。開催スケジュールから機材の準備まで運営スタッフは全て市民ボランティア。参加者数（延べ人数）は、H25：1,628人からはじまりR4：48,431人となっている。
- ・ 健幸ポイント事業（第1期）：H26～H28 国の実証実験で実施（総合特区6自治体で実施）。最終参加者1,600人。地域振興券やポインタポイントなどに交換（最大2万円相当のポイントゲット）。→一人7.7万円の医療費抑制効果が見られた。
 - * 総合特区：健康長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ
- ・ これらの事業を通じ、低迷を続けていた特定健診受診率が上昇に転じ、スポーツ施設の利用者数が増加した。
- ・ 総合特区が終了し、健幸ポイント事業の国庫補助が終了し、恒久化に向け、「健幸のまちづくり条例」の策定や「健幸のまちづくり協議会」の設置を行う。
- ・ まちづくり協議会：産官学が連携し、まち全体で健幸のまちづくりを進めるため設置した健幸づくりに関する事業の協議を行う組織。健幸ポイント事業の在り方、ヘルスケア産業育成のため等の健幸リビング・ラボ運営について、健幸フェスティバル、高石マルシェについて協議している。
- ・ 健幸ポイント事業（第2期）：H29～R2。事業主体をまちづくり協議会に。参加者数は2,993人。参加条件を40歳から20歳以上に引き下げ。歩数計管理サービスの登録制（市内にデータ送信拠点あり）
- ・ 健幸ポイント事業（第3期）：R2～（SIBを活用）高石市を代表自治体として、飯塚市（福岡県）、田原本町（奈良県）、湯梨浜町（鳥取県）と地方創生推進交付金の認定を受け、SIBを活用した「飛び地型自治体連携プロジェクト」を実施。対象は20歳以上の市民、参加者数約4,000人、入会金500円、年間交換ポイント上限あり。地元企業1社との連携をスタートし、参加者社員に獲得ポイントに応じた、地域商品券などプレゼントする。
- ・ 健幸ポイント事業費（R3）は約4,800万円。（市の負担金として約5,700万円）
- ・ 健幸リビング・ラボ事業：拠点をもち、ワークショップの開催、健幸モニターの活用など、ヘルスケア商品やサービスの開発、ヘルスケア企業におけるテストフィールドとして活用されている。拠点では、ウォーキング、体操等の開催やコワーキングスペースとしての提供もあり。健幸モニターは約2,700人が登録しており、利用企業を募集している。
- ・ 健幸フェスティバル&高石マルシェ：毎年11/23と3月春分の日に開催。地域

の特産品販売や健康体験ブースがある。抽選会の実施やウォーキングイベントの同時開催も。近年の参加者数は 600-800 人。

《主な質疑応答》

問 累積赤字解消に向けての取組みは市民の理解など大変な努力であったと思うがどうか。

答 保険料収入が少なかったので適切な保険料としての徴収強化を行った。単年度黒字を確保できるようになってきた。

問 国保料は、現在も値上げしているか。

答 現在は、府内統一料金となって、大阪府が決めた価格になっている。

問 限度額の金額は。

答 104 万円になる。(岩倉市 6 月議会で 106 万円になることを可決)

問 保険料未納者の状況は。

答 滞納者は 1000 人近くいる。何百万単位での滞納額の方もまだ残っているが不能欠損で処理されている。

問 徴収強化は大変で難しいことと思うが具体的にどのようなようになされたのか。

答 効果的であったと思うのは、電話でのコールセンター開設により (p8) 納付忘れの方に電話したり、督促する方に電話することで、納付漏れをへらすことができ徴収率が上がった。また、口座振替、ペイジー導入など払いやすい工夫もした。最近ではコンビニ収納や paypay でも支払い可能である。

問 p13 の健康事業ポイントについて、本市でも無関心層への対応は苦労しているが、どんなアプローチをされているか。

答 大阪の地域性もあるかもしれないが、何かポイントがもらえるとなると参加するとなる。第 1 期ではまあまあのインセンティブを与えた。口コミで広がり定員に達した。

問 地域振興券やポインタポイントで市内で物が買えるという意味か。

答 商工会がやっている地域振興券やあとはポインタポイントになるが、年配の参加者が多いので、地域の商品券に変える方がほとんどである。

問 医療費が下がった結果については何かあるか。

答 やはり歩いてもらえるのがよいと感じている。

問 最近の赤字状況は。

答 令和 5 年度は単年度で赤字になり、累積黒字が目減りした。トントンといった感じである。

問 こういった累積赤字は全国的に珍しい状況か。

答 当時このような赤字があったのは、本市とあと 2 市ぐらい。他は基金があり

対応している。本市にはまだ基金がなく、赤字になった場合の対策は今後必要なので今、考えている。

問 ポイント事業は何かアプリを使っているか。

答 歩数計とアプリの両方がある。年配の方は、歩数計の方を選ぶのがほとんど。市内に19拠点ほどデータ送信ポイントがあり、歩数計と連携している。

問 歩かなくても振ったら反応するなど心配はないか。

答 高機能なものではあるが多少影響はあるかもしれない。

問 p44に表があるが、1000歩で1ポイント、10000歩で10ポイントで500ポイントためるのに大変かと思うがどうか。

答 他のポイントもあり、特定健診で500ポイント、歩数が上がったなど頑張った人に対するポイントもある。

問 ポイント事業の予算は年間約5700万円ぐらいかけているが、これ以上に医療費は削減となっているか。

答 一人当たりの削減額に参加人数をかければ、事業費以上に抑えられてると思っているが、できるだけ参加をしてもらい続けてもらわないと効果はでない。長い目でみた事業と考えている。

問 歩数計は無償配布か。

答 最初は無償であったが、令和2年から500円となっている（入会料扱いとなっている）、貸与ではない。歩数計自体は、5000円ぐらいするもの。

問 企業へのモニターについて、企業へのPRはどのようにされているか。

答 企業訪問してPRしているが、少し集まりかけると広がる。委託会社に依頼しているが、東京にも拠点があり、東京の企業にもセミナーの開催などアプローチしている。また大阪市内でセミナーの開催をしている。

問 年代別の要望についての対応状況は。例えば30代の・・・などは。

答 登録者は年配が多いので、均等にしたいとは思っている。

問 p18 ポイント事業の企業版について、財源は企業で、その社員が参加しているものか。

答 財源については、投資ファンドを作ることも考えたが、設立や運営経費がかかり、費用対効果も考えるとできていない。

問 地域振興券などのプレゼントの財源はどのようなか。

答 臨海企業の方になり、参加者は少ないが、会社が社会保険の方で、独自に取り組まれている。

問 医療費が高かった要因は何かあるか。

答 人工透析の大きい病院が2つある。その影響があるのかもしれない。

問 透析をする方が、引っ越してこられるのか。

答 H28 より前になるが、住所特例の適用がないとき、精神疾患の病院があり、そこに入っている方や精神疾患になると医療費も高いなどがある。また人工透析の方も一定数居るとというのが要因と思う。

問 健康対策事業の取組みもあるが、一般会計の法定外繰入もある。赤字解消への効果は事業成果が大きいと考えてよいか。

答 平成 30 年から繰入額については府の方から統一が図られた。段階的に減らすように言われてきた。保険料の独自減免を行っており、そのなごりがあり、繰入も多くしていたところあった。これも令和 5 年度に解消しており、現在では繰入はやっていない。

問 まちづくり協議会やラボの取組みで市職員の役割は。

答 協議会の事務局をやっている。イベントの周知などやっている。マルシェのチラシ配りも駅でやった。

問 商品開発は企業からの提案になるか。

答 企業からの提案になり、市としては倫理委員会があるのでその開催で、個人情報、安全性などチェックするようにしている。モニタ事業としてできるか判断している。

2. 駅周辺のウォークアブル化への背景と内容

- ・令和 2 年から高石市と羽衣駅周辺の整備事業を行う。事業費：約 3 億 5 千万円、国費：約 1 億 5 千万円
- ・ハード整備は国土交通省、実施設計と工事費については国費があたる。
- ・基本構想と基本計画は、国交省の補助もあるが、地方創生推進交付金を使い策定した。(交付金は 50%、起債は 90%)
- ・国交省の中のメニューで「まちなかウォークアブル推進事業」を活用した。
- ・南海本線・高師浜線連続立体交差事業とともに行われた。(事業費約 700 億円)
- ・高石駅前では、芝生化をはじめ、ウォークアブルなまちづくり、多世代交流拠点としての活性化、羽衣駅では、市有地の利活用について検討された。
- ・先行して、高石駅の駅前広場(約 3,000 m²)を整備(R4 年に設計と工事)し、今年の 3 月に完成。現在は高架下利用を検討している。羽衣駅については、再開発ビルを整備し、東羽衣駅北側の市有地(2,700 m²)をどうするか検討中。
- ・高石駅：「アプラたかいし」という再開発ビルになるが、R2 年に 1 階の商業

床を改修し、建物の前に大型エネルギービジョンをつけた。(経済産業省のお金を活用) また R3 に、2 階をブックカフェなどリニューアルし、国交省のお金を活用して、地域の交流空間をつくる。

- ・開業当初はよいが、店舗が抜けないよう、店舗の入替をしたり、市の出資額を増やしたり、支援している。
- ・芝生広場：天然芝ではなく、人工芝となっている。天然芝は面の半分が養生期間となり使えないなどの制限があった。(議会も人工芝賛成であった) 駅前でここまでの広さの人工芝は当時なかった。子ども会カーニバルなど開催した。
- ・基本計画策定に向け、アンケートでは公園広場(子供が遊べる・運動できる)を求める意見が多かった。
- ・整備コンセプトを「子育て世帯の定住促進」「多世代の交流促進」「ウォークアブルなまちづくりの推進」「高架化によるまちの活性化」とする。
- ・高架下の活用に向け、ワークショップを開催(3回)。市民活動に関わっている人に参加してもらおう。
- ・R6 年基本設計、R7 実施設計、R8 工事、R9 春オープン予定
- ・羽衣駅：「交通の結節点で、ひととまちが交わる魅力づくり拠点」とした。R4 末に基本構想策定。浜寺公園の魅力の取り込み、羽衣学園など地域に根ざした人中心の魅力創造、乗り換え客、通勤客が多く大人や学生の居場所としている。
- ・羽衣駅周辺まちづくりワークショップを実施(全4回)。応募者の半分が落選したが、そういった方も呼んで、案を作りたいと考えている。
- ・アンケートをとった。「あなたの欲しいはなんですか」
- ・ウォーキングロードの整備：一定の人が歩いている。歩くところとして定着。南海中央線加茂地区：H25 年 7 月供用開始。せせらぎもある。事業費約 40 億円(用地買収 32 億、工事 8 億)。L=525m、W=25m(現在、さらに道路事業は延長している)

《主な質疑応答》

問 市の規模に対してすごい開発ではないか。

答 大きな開発である。

問 計画的になされていると思うが、実際のご苦労は。

答 羽衣駅の担当であるが、地権者との交渉が難航した。反対の人は、駅の近くを求められていて時間かかった。商業施設での店舗や今後の生活に向け賃料の問題なども言われた。

問 踏切を多く撤去して道路にするのはすごい計画ですね。

答 同じ時期に泉大津市も採択されたが、工場が多かった。高石市は民家が多く大変であった。

問 鉄道ではなく、道路の高架の考えはなかったか。

答 なかった。高速道路が既にあるが、この部分は鉄道高架にはできなかった。

問 歩きたくなるというのは、南海中央線のことと思うが、その歩きたくなるような取組としては、せせらぎを作ったことになるのか。

答 もともとの計画は片側2車線の道路であったが、そこまで必要にない考えもあり、せせらぎや自転車道、歩行者道をつくった。

問 ここをあえて歩くという市民の方のウォーキングコースになっているのか。

答 はい。夜も歩いている。

意 本市も川沿いに健幸ルートがあり、歩きたくなるような仕掛けを考えているが、自転車と歩行者を完全にわけることで歩きやすくなると感じた。

問 車の渋滞はないか。

答 ない。付近に国道など広い道が複数ある。まだまだこれから整備する状況でもあるが、細くなっている道も残っている道である。

問 電柱の地中化はなぜ。歩きやすいと関係あるか。

答 新設の道路は地中化をしている。歩きやすいとは関係ない。すでに整備が終わっている区間で、地中化する予定はない部分もある。

問 せせらぎは自然な水が流れるしくみか。

答 水道水である。水漏れがあったりとか議会から非難もあるところ。やや見直しの声もある。

問 表示板や距離表示の計画は。

答 まだ、計画中の区間もあり、できた時点で考えたい。その分、幅広の歩道にしたり、自転車を分けたり、せせらぎ、無電中化による支障物がなく歩きやすい、連続的に照明を設置し夜間も歩きやすい、夏も涼しくなってから歩きやすいといったところになる。

問 看板があるがどういったものか。

答 ケンケンパーをしたりなどできるよう、カラー舗装で描いているが、まだ浸透されていないのか、周知もむずかしいが、そういった工夫もしている。

問 ウォーカブル化のまわりはほとんど住宅地か。農地はないか。

答 住宅地である。ベットタウンである。

問 市街化区域の割合は。

答 18ヘクタールは調整区域が残るがほとんど市街化区域。駅が多い。どこに住

- んでも 500m 半径に駅がある。徒歩圏内、歩いて暮らせるまちである。
- 問 高架下の利用についてももう少し教えてほしい。
- 答 南海電鉄の考えなどあるが、基本的には公共の場合 15%が利用可能。実際は 20-25%利用しているところもあるようだ。
- 問 暑さ対策でミストをつけるような取組はあるか。
- 答 道路へのミストはむずかしいかもしれない。植樹もしていない。落ち葉管理などの理由から。
- 問 ワークショップ羽衣の方は、若い方が多く見えるが、まちづくりに関心を持つ人を集める工夫は何かあるか。
- 答 申し込みはWEBにした。抽選方式とした。学園の 100 周年などもあるが地域に熱心な方が多かった。
- 問 羽衣大学は高石市内か。
- 答 堺市にもかかっている。
- 問 買収の時、土地の交換はあったか。交換用の土地は持っていたか。
- 答 あった。駐輪場をつぶして交換した例はある。
- 問 人工芝の反応は。
- 答 子どもや高校生が遊んでいたり、過ごす光景みられる。ただ、ジュース、ガムなどこぼせない。水で流しても残ってしまう。飲食禁止にはしてない。注意看板で啓発（食べるときのシート利用など）。動物については、ペット散歩はやめてほしいとしているが、見てないときされてしまう。大きなごみや目立った汚れは掃除してもらおうようにしている。
- 問 せせらぎのある道路整備についての財源は。
- 答 社会資本総合整備総合交付金である。駅の周辺整備は 50%ついているが、コロナ後、内示率が低くなっている。
- 問 他のところも自転車道の整備が見られたが、そういった方針か。何か計画があるか。
- 答 所管が違うが、特に新しい道路については自転車道を作る方向になっている。
- 問 駅の高架化は大阪万博と関係していたか。
- 答 結果的には、万博に合わせて完成していくことになった。

3. その他（市民体育祭の状況）

《主な質疑応答》

- 問 自治会対抗リレーのメンバー構成や選出方法は。
- 答 競技は子どもと大人に分かれている。

大人の対抗リレーは、中学生から 25 歳の女子、同男子、25 歳以上 35 歳未満の女子、35 歳以上の女子、25 歳以上 35 歳未満の男子、35 歳以上の男子 の計 6 走者/1 チームで子どもの対抗リレーは、小学生 1・2 年生の女子男子、小学校 3・4 年の女子男子、小学校 5・6 年の女子男子の計 6 走者/1 チームである。 *この走者順は固定で、男女が一緒に走ることはない。

自治会ごとに申し込みしてもらっている。

参加は少なくなっているが、21 の自治会数が体育祭に参加しているが、大人のリレーが 15 団体、子どものリレーは 16 団体の参加となっている。

体育祭自体への自治会の参加も減少していて、自治会は 51 団体あるが、21 団体の参加であり、抜本的な見直しが迫られている。

問 選手選考は自治会任せになるか。

答 自治会で行っている。聞くところによると子どもの確保が難しく、自治会未加入の家庭にも声をかけて集めている状況が多いようだ。

問 開催時間の終了時刻が 15 時から 13 時変わったがなぜか。

答 参加者数の減少により、種目も少なくなっているためである。

問 2017 年のプログラムで「鉄人ツライアスロン」「ナイスちょっと」の種目の内容はわかるか。

答 今はもうなくなっている。内容はわからない。現在の体育祭は 50 m 走など走る種目が主になっている。あとは玉入れやパン食い競争しかない感じである。

問 学校で自治会単位のリレーはあるか。

答 ない。学校のみで行っている。

【現地見学先】

市総合保健センター、健幸リビング・ラボ、駅前広場、ウォーキングロード

【所 感】

今回、岩倉五条川健幸ロードの更なる充実やその他の健康増進策、また国保会計における保険料増加傾向の現状から何か抑制策を見つけ出せないかという思いから、人口と面積が同じくらいの規模である高石市を選び、視察を行った。

国保会計では、約 12 億の累積赤字を解消させた取組から、法定外繰入をしている状況もあったが、健幸増進策の取組にも効果があることを感じた。頻度の高いウォーキングの開催や、インセンティブのある健康ポイント事業は参考にしたい。また、歩数計を配布してしっかり管理運営していくことで、精度の高い事

業展開やおそらく当事者においても、健幸増進に対する意識が高まるのではないかと感じた。岩倉市の健幸マイレージ事業では、目標値が低いのではないかと感じた。つまり健幸増進策を始めるきっかけとしては良いが、継続して本当に健幸を手に入れる手段としては物足りないのかもしれない。

産官学の取組もあり、ヘルスケア産業育成の取組はできると良いと感じたが、本市には産業構造の違いからハードルが高いかもしれない。

市民主体のまちづくり協議会の取組は参考にしたい。健幸に関心のある市民の方の知恵も借りながら、行動の協力を得ながら、健幸マルシェや保健センターの敷地等を利用した健幸フェア（単独）が開催できるとよいと思った。

また、五条川健幸ロードの充実に向けては、歩きたくなるまちづくりへの取組が参考になった。広い歩道の確保、自転車道と歩道との分離、健幸誘発に向けた路面の工夫など参考にしたい。せせらぎについては、維持管理に難しさがあることを教えてもらった。

駅周辺の開発事業については、開発規模が違いすぎたが、交流拠点にしたいなどのコンセプトは大変参考になった。ベンチの設置は交流拠点とした場合、滞在するのに有効であると感じた。またワークショップを開催し、そのメンバーを市内全域から募集し基本構想の具現化を検討したり、どのような駅前を望むかアンケートを実施したりの取り組みなどは、導入時期は慎重になるが、参考にしたいところである。市民はどんな駅前を求めているか改めての確認作業が必要かもしれない。

市民の暮らしの向上や市財政にも良い影響を及ぼす健幸施策をこれからも充実させていけるよう考えていきたい。

【参考用写真】

